

(1)

2025年度(令和7年度)学校評価自己評価表

精華中学校区	校番 34	福山市立金江小学校
最終更新日	2026年(令和8年)2月1日	

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する資質・能力	【主体的に学ぶ力】【思考力・判断力・表現力】【自己形成力】
<ul style="list-style-type: none"> プロセス評価の評点が向上するように、PDCA サイクルの視点をもってマネジメントしてほしい。 学校と地域との連携協力をさらに深め広げていくことが大切である。 少人数の良さを生かし、一人一人の子どもたちに成功体験を持てる機会を通して自己肯定感を育ててほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 興味をもったことを探究するなど、主体的に行動する姿が増えている。 自分の考えを持ち、他者に伝えるなど、自己表現力が育ってきている。 教科で身につけたい力が十分身につけていない児童生徒がいる。 人間関係の固定化やレジリエンスにややかけるところもある。 	<ul style="list-style-type: none"> めざす子ども像(義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等 	<ul style="list-style-type: none"> 確かな学力を身につけ、自ら進路を切り拓く子ども 自己肯定感が高く、地域に愛着と誇りを持ち、社会に貢献できる子ども 学力分析と授業研究を通じた「主体的な学び」の授業づくりに取り組み、学力の向上を図る。(授業研究部会) 「自分で選び・決める」活動に取り組み、思考力・判断力・表現力を育成する。(プロジェクト部会) 児童生徒の自己肯定感と自己有用感を向上させ、自己形成力を育成する。(自治活動部会)

III 自校

ミッション
地域に貢献する 自立した子どもの育成 ～「子ども主体の学び」を授業でも生活でも行事でも～

学校教育目標
共に高まる たくましい子の育成

現状
<p><児童生徒></p> <p>児童と教職員で目指す姿を具体化して共有し、児童の考えを生かした取組を行ってきたことで、「自分達で学校をよりよくしていこう」という意識が高まってきている。自分達の目指す姿に近づいたかをスモールステップで振り返りながら、取り組んでいく過程を大切にすることで、自分のよさや課題に目を向けて取り組もうとする姿が見える。</p> <p><授業></p> <p>教材研究ノートを作成し、教科・単元のねらいや内容、系統性など「何を学ぶのか」を明確にした授業づくりを行っている。児童の実態をもとに単元の知識の構造図と問いの構造図を作成し、児童が自ら学習課題を見出し追究したり解決したりする学習過程を見通した単元づくりや学習内容を既習事項や日常生活と結びつけて考える授業づくりを行うことで、児童が意欲的に学習に取り組んでいる。問題の意図を捉えて、学んだ力を使って解決する力には課題が残る。</p>

育成する資質・能力	主体的に学ぶ力	思考力・判断力・表現力	自己形成力	
めざす子ども像	小1～小4	日常生活をよくするために、生活体験などの情報を生かし、様々な課題に意欲的に取り組むことができる。	自分の考えを持ち、相手意識を持って、話したり書いたりして表現している。	思いやりの心を持ち、目標を達成するために、協力し合い、粘り強く努力している。
	小5～中1	日常生活や地域社会をよりよくするために、学ぶことに対し自分で価値を見出し、様々な課題に意欲的に取り組むことができる。	日常生活や地域社会をよりよくするために、既習事項を活用して、自分の考えや意見を話す・書く等で表現している。	日常生活や地域社会をよりよくするために、相手のことを思いやりながら目標を決めて、最後までやり遂げようとする。
	中2～中3	社会をよりよくするために、学ぶことに対し自分で価値を見出し、様々な課題に自発的・能動的に取り組むことができる。	社会をよりよくするための課題を見つけ、既習事項を活用して、自分の考えや意見を工夫しながら表現している。	誰に対しても思いやりの心を持ち、より高い目標を達成するために、相手の立場や考えを尊重しながら、粘り強く取り組み、やり抜いている。
研究	テーマ	主体的に課題を追究し、共に高まる児童の育成 ～資料を活用し、思考力を高める授業を通して～社会科・生活科を中心に		
	内容等	①教材研究・・・教科・単元のねらいや内容、系統性を明確にした単元づくりを行う ②資料提示や効果的な体験活動の工夫・・・単元の狙いに沿った資料の活用をしたり、見学の根拠を明確にした体験活動を設定したりする。 ③児童の振り返りと授業改善・・・児童一人一人が、本時の学習を言語化し、それに基づいて授業改善を行う。		
めざす授業の姿	社会的事象に興味をもち、自ら問いをもたせることができる授業。 資料を正しく読み取り、資料から課題を解決する場面を設定することができる授業。 キーワードや視点を提示し、自分の意見をまとめる機会を作る授業。			

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立金江小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況	力% 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	力% 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
4	主体的な学びの授業づくりを進め、学ぶ意欲と学力の向上を図る。	★	継続	主体的、協働的に学ぶことができる授業づくりを行い、学力を向上させる。	<ul style="list-style-type: none"> •ねらいや内容、系統性を明確にした単元づくりを行い、主体的に学ぶ場、自分の言葉で表現する場を設定した授業を行う。 •セカンドスクール(放課後学習)を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> •学期末テスト(1・2年国算2教科、3~6年国算社理4教科)の「知識・技能」で平均80点以上 •「友達の考えを聞いたり話し合ったりして学びを深めている」児童80%以上 •セカンドスクールを月に2回以上実施 	<input type="checkbox"/> ねらいや内容、系統性を明確にした単元づくりを行い、学期末テストの結果は、国語84.1%、算数90.8%、社会85.5%、理科90.3%だった。算数、理科、社会については、概ね知識・技能は定着している。国語は特に漢字の定着が不十分なところがある。 「友達の考えを聞いたり話し合ったりして学びを深めている」児童93.5%以上 <input type="checkbox"/> セカンドスクールを毎月設定し、学力補充を行った。	4	4	<ul style="list-style-type: none"> •今後も朝学習などで計算練習をしたり、キュービナを活用したりして定着を図る。 •漢字を使った文づくり、前学年の漢字を含めた小テストの実施をし、定着を図る。 •達成率40%未満の児童を対象に、セカンドスクール実施する。月中行事に示し、どの学年も計画的に実施できるようにし、個に応じた手立てをとる。 	<input type="checkbox"/> 全国学力学習調査や福山市学力調査を分析し、どのようなことを授業に取り組むかを全職員で考え授業の中で実施してきた。また、毎月1回は各自の教材研究ノート进行交流し、良いところを自分の教材研究に取り入れたり、子供の書いたノートやポートフォリオ进行交流し、学年間のつながりを意識して授業に取り組んだりした。 2学期末のテストの結果は、国語87.6%、算数78%、社会86.2%、理科83.3%だった。 「友達の考えを聞いたり話し合ったりして学びを深めている」児童93% <input type="checkbox"/> 達成率40%未満の児童を対象に、セカンドスクール実施した。月中行事に示し、どの学年も計画的に実施できるようにした。	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> •児童や教師が単元全体の見通しを持って学習できるようにする。 •前学年の内容や前単元の内容についても定期的に復習をし、確実に習得させる。

		継続	<p>学校図書館を活用し、多様な種類の本に触れ、読書量を増やし語彙力を高める児童を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・月2回の読書デーでは、読書カードを書き、読んだ本の感想等を書き溜める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書感想文を学期に1回以上書く。 ・図書委員会で、学期に1回以上学校図書館を活用する取組を行う。 	<p>□読書月間を設定し、本を読み一言感想を書いた。その中から一番心に残った本について、国語の学習で身に付けたことを生かして、読書感想文にまとめた。</p>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・読書感想文を書いて終わりではなく、お互いの文章を読み合い、友達の表現の仕方のいいところを伝える。また、教師はいい表現を広めていく。さらに、本を読む中で初めて知った言葉や意味の分からない言葉を調べる中で語彙力を高めていく。 ・教科書に載っている参考図書も読み、授業で学んだこととつなげていく。 	<p>□国語科の学習と関連付けて、読書感想文を書いた。学年に合わせて構成を指導したり、引用と意見を区別したりするなど技能も指導した。読書感想文を書くだけでなく、読み合い、良いところを伝え合った。また、学校図書館補助員とも連携し、読書感想文のおすすめの本を掲示した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書委員会では、2学期に「図書館の本を借りて読もう。」というイベントを企画した。去年の貸し出し冊数と比較すると600冊アップした。 	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員会を中心に、学期に1回読書に関する企画する。
4	<p>児童の自己肯定感と自己有用感を向上させ、自己形成力を育成する。</p>	継続	<p>生活習慣を確立し自分から進んで行動する児童を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童主体の係活動や委員会活動・学校行事を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「活動を通して自分が成長したと感じる」児童85%以上 ・委員会の発表を学期に1回以上 	<p>□児童会や委員会などで、児童が主体となって活動を行った。児童朝会等を通して、進んで発表の内容等を考えることができた。</p> <p>「活動を通して自分が成長したと感じる」児童90.8%</p>	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの生活習慣について課題を持ち、スペシャルがんばり週間を中心に、改善のためにどのように行動していくか学校や家庭で一緒に見直しを図る。 	<p>□児童会や委員会活動を通して、児童のアイデアを積極的に採用し、今までにない取り組みを行うなど、児童主体で活動することができた。</p> <p>「活動を通して自分が成長したと感じる」児童93%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣の改善を意識させるために、スペシャルがんばり週間では時間を守れていない児童に教師が個別に声をかけ、改善に向けてアドバイスをを行った。 	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会の発表を通して、児童に企画・運営する力がついた。来年度も継続して行う。

		新規	相手を大切に する行動や言葉 を使うことが できる児童を 育成する。	・あいさつや返事を することの意義を理 解し、進んで取り組 むことができるよう にする。	・中学校区統一のあいさ つの指標をもとに、毎週 の振り返りで「自分から あいさつができた」児童 85%以上	□児童会を中心に あいさつ運動に 取り組んだ。あ いさつレベルの 振り返り等を行 い、家庭と連携 しながら挨拶の 取組を行った。 毎週の振り返り で「自分からあ いさつができ た」児童 95.6%	4	4	・朝会等で児童が集ま る場で、児童会だけ でなく各学年が持ち 回りで、あいさつ に立つ場を設け る。 ・あいさつや返事につ いての意義や目的 を再確認し、あい さつの大切さにつ いて各学年で考え る。	□あいさつを意識して 行うために、朝会等 で各学年が持ち回 りであいさつに立 った。また、児童会 や委員会の主体的な 企画を通して、「望ま しいあいさつの仕 方」や「あいさつが もたらす心の変化」 について考える場を 設けた。 「自分からあいさ つができた」児童 88%	4	4	4	・今後も学校と家 庭と連携を図 り、児童のあい さつや返事につ いて取り組んで いく。
1	地域ととも にある学校 づくりを推 進する。	新規	保護者や地域 と連携した教 育活動を展開 する。	・児童が、地域に出 かけたり、地域の方 を招いたりして学ぶ 機会を作る。	・地域学習として全学年が 地域に出かけ、地域のこ とを学ぶ。(年1回以 上) ・感謝の会を企画して、 地域の方とのふれあいの 場を設定する。	□低学年は生活科 の中で金江町の フィールドワー クを実施した り、5年生は地 域のお店に聞き 取り調査をし たりした。6年 生は、世界ばら 会議の中で、地 域住民の協力を 得たり、地域 の方を招いたり する等、世界ば ら会議に携わ った。	4	4	□体験活動(フィー ルドワークを含 む)では、目的や 付けたい力を明確 にした上で、今後 も実施をする。	□地域とともにある学 校づくりを推進す るために、保育所の子 供達や地域の方を招 いてふれあいの場を 開催した。また、ス ーパーマーケットや 常石造船、福山城周 辺文化ゾーンなど、 地域を教材化し学習 の機会を設定した。 さらに2月には、地 域の方々に感謝を伝 えるための会を企画 し行う。	4	4	4	・生活科や総合的 な学習の時間の年 間計画の中に、地 域との関わりを位 置づけ、系統性を もって取り組んで いく。
4	教職員の資 質・能力の 向上を図 る。	継続	子供の学びを 促す授業力を 向上させる。	・観察授業週間を設 定し、授業観察を通 して互いに学び合う 機会を作る。	・月に1回以上の授業観察 を実施	□月に1度の授業 観察を行い、授業 力向上を図ること ができた。	4	4	□引き続き授業観察 を行い、放課後に 授業についての意 見交流を行う。	□観察授業週間を毎月実 施し、授業を見て気づ きや学びを放課後交流 した。	4	4	4	・来年度以降も授 業観察週間を実 施し、授業力を 向上していく。
		新規	教職員が元気 で生き生きと 勤務できる環 境を作る。	・「困っていないで すか」等の声かけを し、「ありがとう」 の感謝を声に出して 伝える。	・「互いに助け合える職 場である」と感じる教職員 100%	□「互いに助け合 える職場である」と 感じる教職員10 0%	4	4	□夏季休業の終わり には、再確認を行 い引き続きお互い に助け合うことを 意識する。	□各主任からの声か け、ヘア学年の担任 士での声かけなど、お 互いに助け合う職場づ くりを行った。 「互いに助け合える職 場である」と感じる教				・職員同士の声か けを継続する。 する。

